

学校家庭地域連携

だより



第328号

令和6年5月1日発行

発行者 川和中学校区 学校・家庭・地域
連携事業実行委員会
編集者 広報活動部
事務局 川和中学校 TEL: 941-1361

本紙は川和中学校区内の青少年の健全な育成と安全対策を目的に、学校・家庭・地域社会の関係諸団体や賛同者が連携し、連絡調整、諸活動を進める実行委員会機関紙です。

「みどりを日常生活に」

川和中学校PTA会長 村上 メアリー

昨年より引き続き川和中学校PTA会長をつとめますと申します。

子どもの頃、週末の朝ごはんがすむと「外で遊んで来い」と親によく言われました。友達も同様で、家に戻ると絶対家の仕事を手伝われるため、よほどのことがない限り能なるまで家に入ることはありませんでした。中学校・高校も習字授業をよくやりました。ノートをもって広場に集まり普通の授業をしていました。外で過ごした日々は種々な持ちでした。外で遊んでいるとたくさんの方の人の出いがあり、近所の方から様々なことを教わりました。

あれから数十年。現代は老若男女問わず、パソコンや携帯画面を見ることが多くなり、テレビやゲーム機で暇つぶしして室内で過ごす時間が年々増えています。一方不登校やきこもりなど、精神的な問題を抱える人も増加しています。これらには関係があるのではないのでしょうか？

みどりを見るだけで気持ちが悪くといわれています。個人的に畑をやり始めてから土に触る機会が増えて心が豊になった気がします。背痒、ストレスを抱えていたり、忙しい毎日だったりしますが、気分転換に公園の中を散歩してパソコン持って本気で仕事や勉強をしてみませんか？

地域の皆様、今年度も引き続き子ども達へのあたたかかけと見守りをよろしくお願いたします。



「次の時代へ向かう子供達にご協力を」

川和東小学校PTA会長 松本 雅幸

昨年度の活動を通して、子供達が危険や不安を懸念することなく学校生活を送れるよう様々な取り組みが行われ、そのために学校・家庭・地域の方々の時間と労力が費やされていることを以前よりも深く実感することが出来ました。誠にありがとうございます。

様々な催し物が再開し暮らしに活気が戻ってきた一方、運用体制は縮小・簡素化され、ノウハウも失われたような状態でした。成功の陰には多くの試行錯誤と努力があったのだろうと頭が下がります。

PTAのあり方について議論がありますが、一番重要な軸は、子供達が彼らの将来を生き抜くための基礎を、不要な雑音に惑わされずに学ぶことが出来るよう、私達が子供達に「環境を整える」協力をすることだと思っています。

枠組みとしてPTAが妥当かどうかはさておき、学校・家庭・地域の方々が彼らの一番身近なところにいることは間違いないと思います。軸をぶらさず、今の時代に相応しい関わり方を模索し、子供達の大切な未来を守る助けに少しでも寄与出来たら嬉しいです。

入学・進級
おめでとう

「川和という土地で育まれていくもの」

川和小学校PTA会長 佐藤 有理

本年度も川和小学校PTA会長を務めます佐藤有理です。昨年度はPTA活動だけでなく、町内会や連合町内会、学地連携、社会福祉協議会に郡市区PTA連絡協議会と1年間の中でたくさんの方々と出会い、川和に関わる人だけでなく地域とのつながりを感じる年でした。

先日参加した研修の中で「教員には異動があるが、地元人は地域に根差している。先生は鳥の人、地域は土の人。風と土で子どもたちを育てていく。」という言葉を聞きました。

本格的に行事や活動が再開され、笑顔で楽しそうに、言葉し合いながら活動される地域の方々の姿や、酷暑の日も強風の日も雷の舞う日も活動して下さるミマモールさんの姿、学振隊の保護者の旗振りや登下校時の見守りの姿から、地域を支えている人たちがしっかりと土を耕していてくれると実感いたしました。子どもたちがのびのびと学びながら、太陽のような笑顔で元気に安全に過ごせるために皆様と良い土を耕していけたらと思っています。今年度もよろしくお願いたします。

